

令和4年度 京田辺市産業振興ビジョン推進委員会 （第1回）会議要旨

1 開会

2 委員長あいさつ

3 委員会の会議の公開について

4 審議事項

(1) 令和3年度アクションプラン（前期）評価結果の報告について

（事務局） （令和3年度アクションプラン（前期）評価結果報告）

（委員） C評価の原因が新型コロナウイルス感染症である事業が多いが、少し軟弱に感じる。

ウィズコロナの中で、やり方を考えていく必要がある。

当初やろうとしていた計画に対して、何かできることを探していきたい。

また、上司は仕事の経過を把握することと、事業の担当者としても、外部の協力を得ないとできない場合は、協力してもらうように依頼し、結果に繋がっていただけるよう、検討してもらいたい。

（委員長） 評価結果の概要の総括部分をご覧になっていただきたい。

ウィズコロナの中で検討は行っている。

確かに、実際に実行されたか難しい問題はあるが、市も意識はもっている。

パンデミックはコロナで終わりではなく、新たな危機に備える必要があり対策を考え、実行していく必要がある。

【農業分野】

（委員） 農産物の販路の確保・拡大について。

例えば、田辺ナスの販路拡大は誰がやっているのかを明確にしないと、評価をC評価からB評価にするのは厳しいのではないか。

例えば他市では、いちごをパックに詰めて香港に出荷しており、朝取れたイチゴがうまくいけば、当日の夜に届くようになっている。

つまり、農家の方が技術を持って育てられたいちごをどうやって効率的に市場に出すか考える必要がある。

円安もあり、作物の海外輸出を意識している人もいる。

従来と同じことをしていても、販路拡大に繋がらないのではないか。

（事務局） 農産物の販路の確保・拡大についてだが、行政が直接販路拡大に関わるのは

困難である。このことから、後期アクションプランでは項目を削除している。

(委員) 農政課が農産物の販路拡大は市に係わることは難しいと回答があったが、JAが販路を拡大するにあたり、京田辺市も一緒に行って、京田辺の野菜をPRする、一歩進んだ働きをする必要があると思う。

今の仕事から一歩前に踏み出してやっていかないと、出遅れてしまうし、協力者を得ることはできない。

(委員長) まさにそれが支援であり、主体にはなれなくとも、支援は必要だと思う。

(委員) 他市だが、職員が中心となって行動している事例もあり、行政が入り込んでいくことで多くの人にPRができる。大きい視点をもつことが大切だ。

(事務局) 令和3年度の穀物検定協会の食味コンテストで、京田辺産米が特Aの評価をもらった。

また、委員から意見をもらって、行政は情報発信が下手ということを改めて感じた。

指標をもって評価をさせていただいていることから、残念な形となったものもあるが、玉露については皆さんに飲んでいただく機会を設けられなかった。

しかし、コロナの中でもう一度玉露を頑張ってもらいたい思いから、違うメニューとして農家の方々に支援をさせていただいた結果、今年度は玉露が日本一の評価を取っている。

まずは京田辺市産米が特Aと、玉露が日本一の評価を取ったことを、この場でPRさせてもらおう。

【商業分野】

(委員) 店舗バリアフリー化等への支援だが、ハード整備ができる部署との連携についてはどうか。

(事務局) この事業については、すでに国等の補助金で支援されている面もあり、既存店舗については一定バリアフリー化が進んでいると認識している。

【観光分野】

(委員) 京都やましろ観光ネットワークを核とした広域観光の取組みだが、移動手段はどうするのか。例えば一休寺から観音寺への移動手段が乏しい。

もっと広域的に人の移動を意識した観光を考えないと広域的な観光には結びつかないと思う

(事務局) 京都やましろ観光ネットワークを核とした広域観光の取組みだが、今年度に観光案内所のリニューアルで観光拠点化としたので、そこを拠点とする。

また、観光地をどう繋ぐかとどう示すかという役割は玉露庵が果たし、旅行者と包括協定を結び、観光に関するアドバイスをもらっている。

(委員) 旅行業界では団体旅行から個人旅行へターゲット移行が進んでいる

京田辺市では単独で観光利用客の誘致は難しいことから、他市町村と連携して、誘致を図っていただきたい。

(事務局) 交通分野としっかり連携を図っていきたい。

観光は商業面とのリンクもある。雑貨屋やショッピングモールも観光地になるので、地域を数珠つなぎしていきたい。

(委員) 急がなければ、京阪バスや奈良交通を使って、移動できるのではないか。バスの時刻を調査して、移動のシミュレーションを行ってみてはどうか。タクシーは便利だが、バスを積極的に使うことが出来たらいいと思う。

(委員長) コミュニケーションやアプリを活用しての情報収集は大切である。

技術を使いながらお互いのコミュニケーションやPRができるようにする視点が必要になってくる。

(2) アクションプラン（後期）等の評価について

(委員長) 後期アクションプランは、施策やプランごとに関わりが深いプレイヤー事業者に、ヒアリングやアンケートといった手法で評価し、ご意見を行政の評価に反映していきたい。

さらに、分野横断的な面を評価に加えていきたい。

今までの進捗を評価するだけでなく、主体となった方からの意見を取り入れた評価とレスポンス及び、分野横断として連携ができていたかの評価を加えたいということである。

今後、調整を行っていく。

5 その他（議論なし）

6 部長あいさつ

7 閉会